



発行日：平成 29 年 1 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 8 回海の地域部会を開催しました！

1 月 17 日（火曜日）に第 8 回海部会地域部会が西尾市役所にて開催されました。今回の地域部会では、今年度の活動成果の報告と来年度の活動方針について、意見交換を行いました。



日時：H29 年 1 月 17 日（火） 13:30～15:30
場所：西尾市役所 会議棟 2F 第 4 会議室
参加者：15 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1：本日の話し合いで決まったこと



■活動成果報告について

- ダム砂を活用した干潟造成箇所については、豊橋河川事務所が今年度実施したモニタリング調査によって、多くの生物が生息するなど一定の成果があるとわかってきたことから、今後も継続していく方向で進めます。
- 併せて、今年度のダム砂を活用した干潟造成箇所の成果をふまえ、新たな干潟造成の実現に向けた働きかけを行っていきます。
- 奥矢作森林フェスティバルへの参加は、出展ブース（海の生き物タッチプール）に多くの子供たちが集まり、海の豊かさを知ってもらうことができるなど大きな成果がありました。引き続き、海の豊かさを知ってもらう活動に取り組めます。



■今後の活動方針について

- 来年度の海部会は、単独開催の回数を減らしてもよいので、山、川部会と合同での活動機会を設け、部会員間の交流を深めるなど、会全体としてまとまった、より実践的な段階に移行していきます。
- 「砂の駅」構想については、流域連携テーマである総合土砂管理や川部会で検討中の広域サイクリングロード構想と関連させ、地域活性化を目的とした流域全体での取り組みに発展させていきます。
- 今後のワーキングではフィールドワークを増やしたり、海の環境改善に向けた技術情報を勉強する機会を増やすなど、課題解決に向けた活動メニューに取り組んでいきます。





●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 活動成果報告について

(・意見 ▶回答)

- 3カ年の目標で、合同WGの場を年1回以上設置するという方針については、奥矢作森林フェスティバルへの参加が成果という認識でよいか。(青木)
 - ▶ そのとおりであり、山部会が参加している。(事務局)
 - ▶ 奥矢作森林フェスティバルでは石川組合長が色々準備をされて非常に評判がよかったと思う。準備側は大変だが、今回のようなイベントに海部会として出られるのであれば、非常に良いと思う。山部会のブース(木のおもちゃ)も評判がよく、また一緒に出られることを希望する。(平岩)
- 「河川内堆積土砂を活用した人工干潟の造成の実現に向けて」とあるが、前回地域部会の水産試験場からの調査報告ではダム砂を使うと粒径が色々あるので効果があるという話もあった。河川内堆積土砂だけではなく、課題も多いが長期的な観点からダム砂も使ってほしいと思う。(平岩)
 - ▶ 現在、給砂実験としてダム砂をダム下流へ置く方法をとっているが、ダム砂すべてを持ってくることはできない。総合土砂管理対策として、直接ダム砂を運搬するのは効率的ではない面もあるが、色々検討しているところではある。いずれにせよ、川とダムと合わせた砂の活用を考えていきたい。(事務局)
- 東幡豆の干潟造成箇所のモニタリングについて、事務局主体で今後も継続していただきたい。併せて、今回の経験を活かして、新たに造成箇所を作ってもらえると楽しみが増える。(青木)
 - ▶ 今年度のモニタリングは秋で終わりである。今後も継続して実施してほしいという要望があれば、豊橋河川事務所として継続して行う方向にしていきたい。新しい干潟造成については砂の投入量にもよるが、愛知県や漁協など関係機関と調整していきたい。(事務局)
- 海の問題について、ソフト的な面では色々な情報を入手することができるが、技術的な面では偏りが多く、分野によっては情報を入手しづらい。ソフトだけでは結果がみえてこない面もあるので、たとえば海的环境改善方法など技術的な情報を共有していきたい。(井上)
- 流域連携テーマのうち土砂については、「砂の駅」構想で市民に目を向けさせる砂関連のイベントを開催するかという話になるかと思うが、サイクリングロードを使った砂の運搬で上下流間の交流や地域活性化などにもっていければすごいと思う。(青木)
- 流域連携テーマは本来市民部会で討議される議題であるが、現状は各部会ワーキングで取り組んでいる状況である。ワーキングでやっていくのも大変であるが、できることをやっていきたい。(事務局)

(2) 今後の活動方針について

- 今後3カ年の活動は、なるべく外へ出ていき、交流を深め、情報発信をしていこうという話をしていたが、今年度は外にでる機会が少なかったため、来年度はなるべく取り組んでいきたい。「砂の駅」なら「砂の駅」になりそうな現場に行って、議論するのがよい。(青木)
- 3サイクル目に入ってきて、海部会だけで考えても煮詰まってきた感もある。山部会や川部会のメンバーが海へ来てもらって何かやるなど、合同でやるのがよい。(高橋伸)
- ごみ・流木問題について、愛知県で作成した海ごみの学習プログラムというのを全県に広げていきたいという思いがある。本来、川のごみが海のごみになるということで、山部会、川部会でも紹介したいと思っている。また、来年度は(一社)JEANが調査して、愛知県はその調査結果を発表する、さらに海ごみの学習プログラムを普及啓発するイベントなども実施していきたいと考えている。山の人には山だけの考え方、海は海だけの考え方があるようだが、それがまとまったら矢作川流域の上下の交流など色々な成果が出てくると思う。(高橋敦)
- 矢作川流域内では奥矢作森林フェスティバルや矢作川感謝祭のほか、愛知県管轄の乙川では川まちづくりやミズベリングといったイベントが実施されているので、これらの場を活用することで多くの人に知ってもらうことは可能である。(事務局)
- 愛知県が作成した海ごみ学習プログラムの実践は、来年度のごみ・流木問題の活動方針に記載して、海部会として前面に押し出していきたい。(青木)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。